

武田先生のご退職に際して

経済学会会長

栗原 裕

武田信照先生は2009年3月をもって定年により本学をご退職されることになりました。多くの教職員、学生、関係者が大変残念なことと感じていると思います。これだけ親しまれ、愛され、信頼されてきた方はまさに希少、稀有な存在と言えるのではないのでしょうか。私自身も先生を「明るく」送り出したいと思いつつ、率直なところつらい気持ちでこの文章を執筆しているのが偽らざるところです。

先生は、大阪市立大学経済学部を卒業、同大学大学院経済学研究科に進まれ、修士課程を修了、1969年3月に博士課程を単位取得満期退学されました。1969年4月に本学法経学部講師（経済学史担当）としてご赴任、40年間本学に在職されました。この間1973年助教授に、1985年教授に昇任されました。また1986年には大阪市立大学より経済学博士の学位を授与されています。

先生は、本学において多くの教育・研究にかかわるご要職を歴任されています。おそらくご多忙を極められたのは、経済学部長（1989年4月から1993年3月まで）、そして何よりも理事長・学長の時期（1999年11月から2007年11月）であったものと思われます。先生は8年間に亘りこのご要職を務め、本学の発展に多大なご貢献をされました。車道校舎の拡充にはじまり、法務研究科（ロースクール）の開設、そして名古屋新校舎への展開など、大きな事業をご決断、決定されました。そして、研究活動の活性化に加え教育重視のスタンスを明確にされ、そのための施策を積極的にご提案、施行されました。各大学がまさに厳しい状況に入中、高い知見、能力を如何なき

ご發揮、勇気と決断力をもって本学の発展にご貢献されたことに、多くの方々
は感謝しているはずです。

武田先生との校務での接点は、私が初代の基本構想推進本部委員になった
頃に遡ります。その後、学部長に就任後は、たびたび意見が対立すること
もありました。しかし、理路整然と持論を説明、展開され、かつ誠実に対応さ
れるお姿には、いささかの疑念もなく畏敬の念を持ち続けておりました。や
わらかい物腰の裏に、高い識見に裏付けられた強い信念、理念をお持ちで、
それが揺るがないこと、そして強い責任感をお持ちであったことは、皆さん
がお気付きになっていらっしゃるかと思います。先生は本物の「リーダー」
でした。大学は大きな存在を失ったように思います。

先生が、研究の面でも立派であったことは周知の通りです。著書として、
『価値形態と貨幣』（1982）、『株式会社論の展開』（1998）、および『経済学の
古典と現代』（2006）を発表されました。貨幣形成論に関する研究では、価
値形態論の理論構造および貨幣形態への発展の構造の分析など、貨幣形成の
重要な諸論点に新しい論点を提起されました。また、スミス、マルクス、ヒ
ルファディングなどの貨幣論の比較研究を行い、独自の貨幣分析をご提起さ
れ、学界において高い評価を得てきました。さらに、株式会社に関する学説
の研究では、株式会社における所有と経営の分離の必然性論や所有と経営の
利害関係をめぐる諸問題についての先駆的な考察を詳細に検討したことで、
株式会社論の学説史および理論の進展に大きく貢献されました。

教育活動においても、FD活動を大学に先駆的に導入するなど大きな貢献
をされましたが、自らもその実践者として、有為な人材を多数、送り出して
きました。OB、OGは各界で活躍しています。一言思い出を記させていた
だきますが、理事長・学長退任後、経済学部教授としてご活動いただく際に、
「新しい試みにも挑戦したい」とおっしゃっていたのが、思い出されます。

ご退職は残念ですが、残されたわれわれは、先生のご意思を継承、大学、
学部、そしてこの学会の発展に努力しなければならないと思っております。

先生は理事長・学長退任後は、大学の施策について一切のご発言を控えていらっしゃいました。先生の美学と拝察しております。しかし、今後はぜひお気軽にお話しいただき、ご指導いただくことを願っております。先生のごこれまでのご貢献に心より御礼を申し上げますとともに、今後のご活躍、ご健勝を祈念致します。